

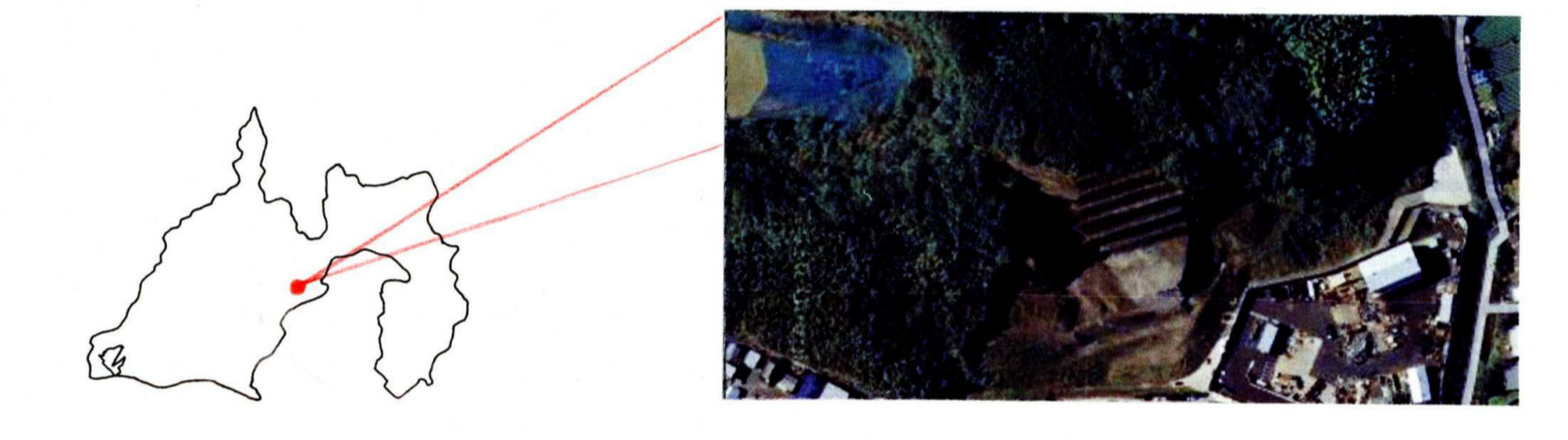
# Rice terrace



**設計趣旨**  
 私たちの考えるエコな材料とは、棚田である。  
 棚田とは傾斜地にある耕作地のごとく、食料生産、雨水の保水・貯留による洪水防止、水源の涵養、多様な動物や貴重な植物の生息空間や美しい景観の提供など様々な役割を果たしている。  
 しかし、今現在農作業の機械化が進み棚田は減少してきている。  
 また、地球上に約14億Lある水は人類にとって最もありふれた物質であり、私達が生活する上で最も不可欠なものである。この豊富な水資源を効率よく利用できる”棚田”をもとに人々が集まる農業施設を考えた。  
 棚田は田んぼとしての機能だけでなく、山自身がため込んだ水を一帯に伝え、全体、そして人々に広げる。また砂利の中の水が伝うことにより自然ろ過されきれいな水が田んぼに届く。  
 そしてろ過された水が棚田に沿って作られた施設内にそそがれ人々を癒していく。  
 使われた水は山を伝い下流までいき、それが太陽光によって暖められ、雲となり雨を降らせる・・・  
 この水の循環（ウォーターサイクル）により、常に施設内が水で満たされ、施設内の温度調節や生活用水、火災時の水の確保などが自然に行うことができる。この施設があることで、人と水、棚田が有機的にかかわることができるだろう。  
 一水の循環を守ることによってエコが生まれ、人の輪が広がる。  
 私達は水と共生した棚田施設を提案する。

## 敷地設定

私たちの住む静岡には富士山を代表として3,000m級の山々が並び、いくつかわが谷が流れている。標高差が大きいため気候の差が激しく、降水量も多い。そんな静岡では最近自然破壊が進んでいる。山や田んぼが削り取られ、家や道路とつながった。この山もその一つである。私たちは削り取られた山の一部を利用して自然を増やし、人が集まるコミュニケーションの場として有効利用したい。ここでは何かと考え、この場所を選んだ。

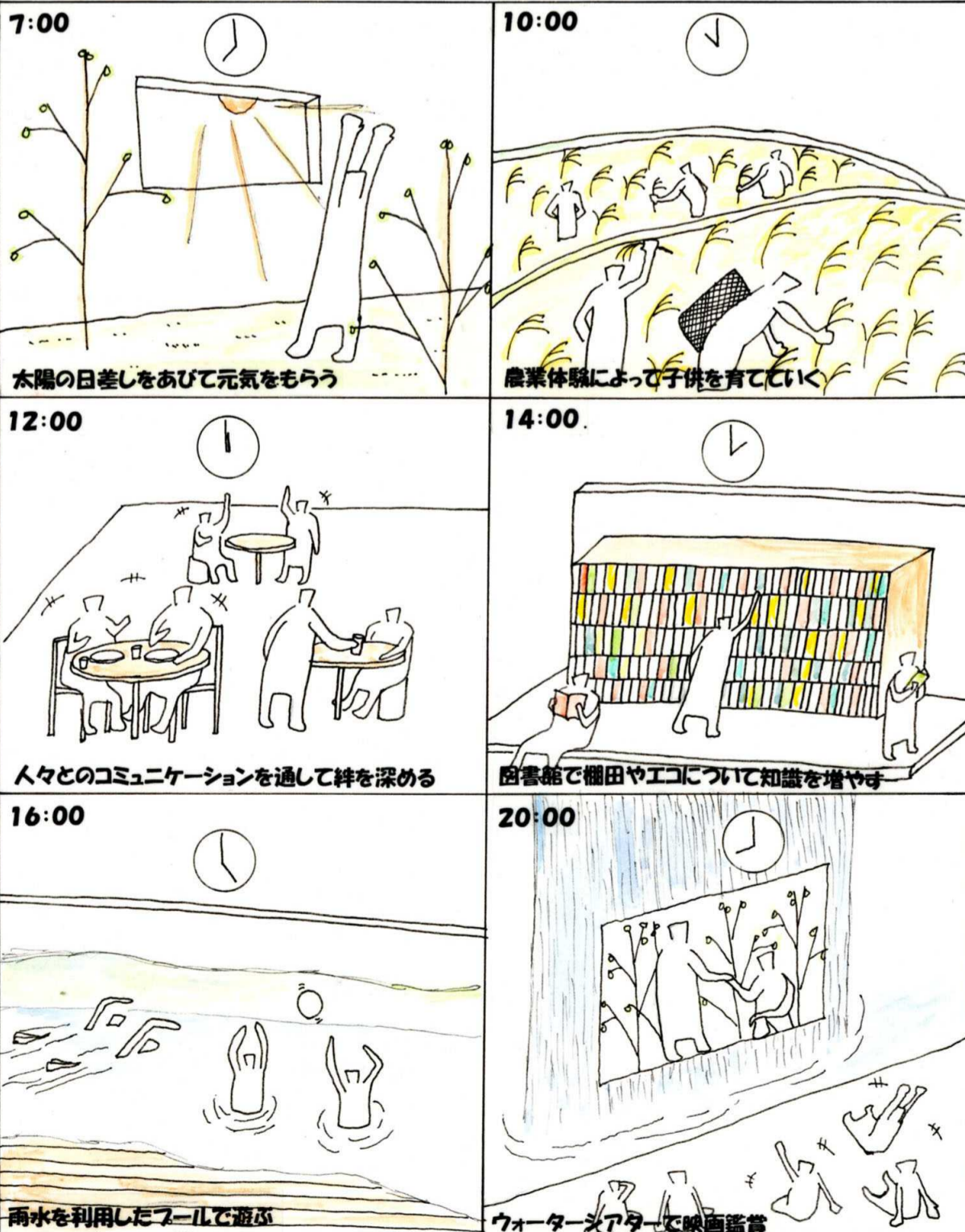


## 棚田の歴史

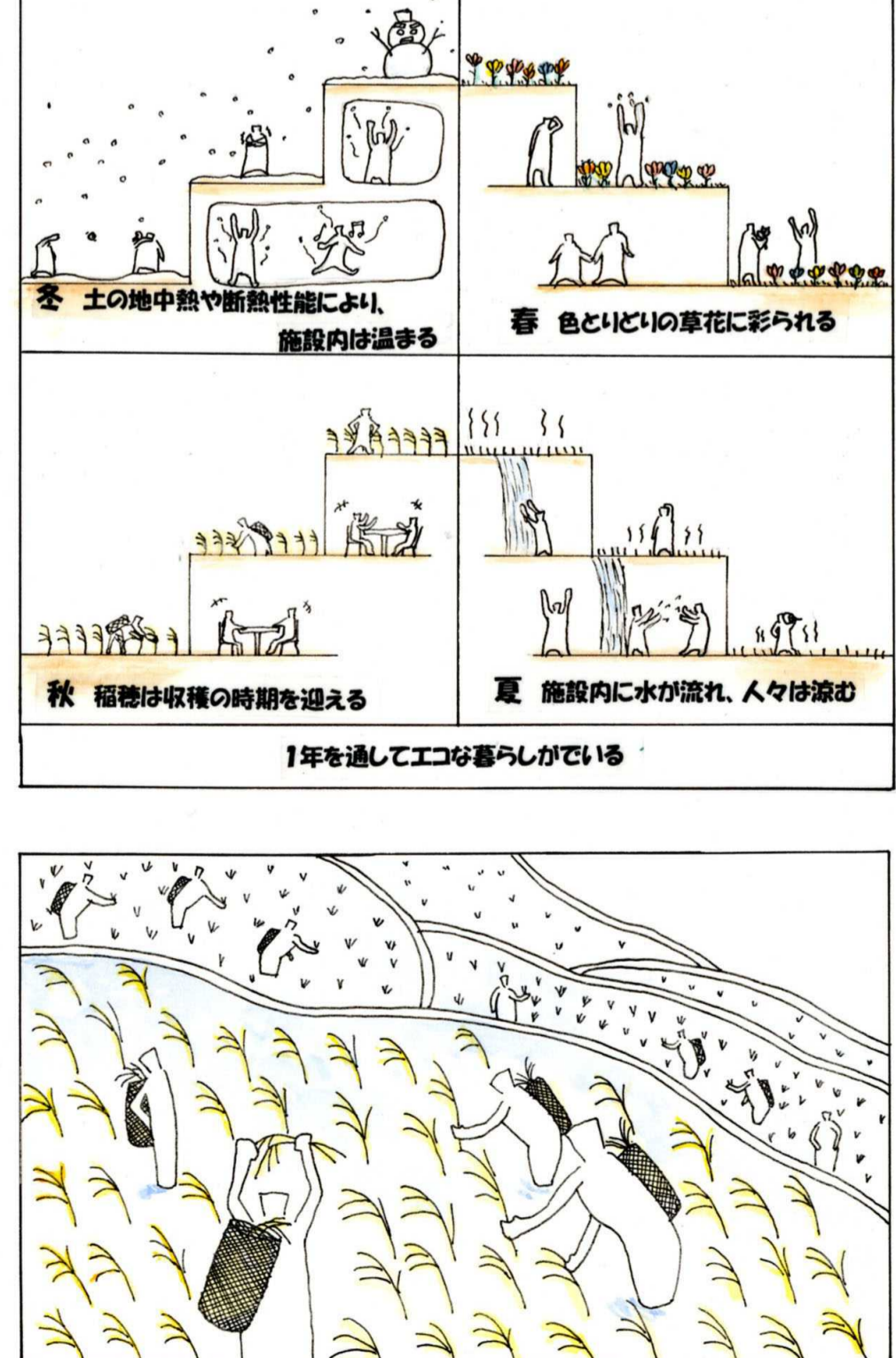
棚田は飛鳥時代以前の古墳時代の害に出現した。「農民のピラミッド」とも呼ばれ、武家社会が始まると共に棚田開発がどんどん進められ、人々に重宝されてきた。棚田は日本の約250万haの水田のうち約22万haあり、8%を占めている。  
 現在の棚田が、過疎化・少子高齢化・労働力不足・鳥獣被害等により放棄され、年々失われ、今では40%以上の棚田が消えているといわれている。しかし近年、棚田が注目され、代々受け継がれてきた棚田を文化遺産として残すという活動も各地域で行われている。  
 今改めて棚田の効用を考え直し、棚田が持っている農山村の人々の暮らしや、山や川などの環境を守っている働きを見直すべさだと思ふ。



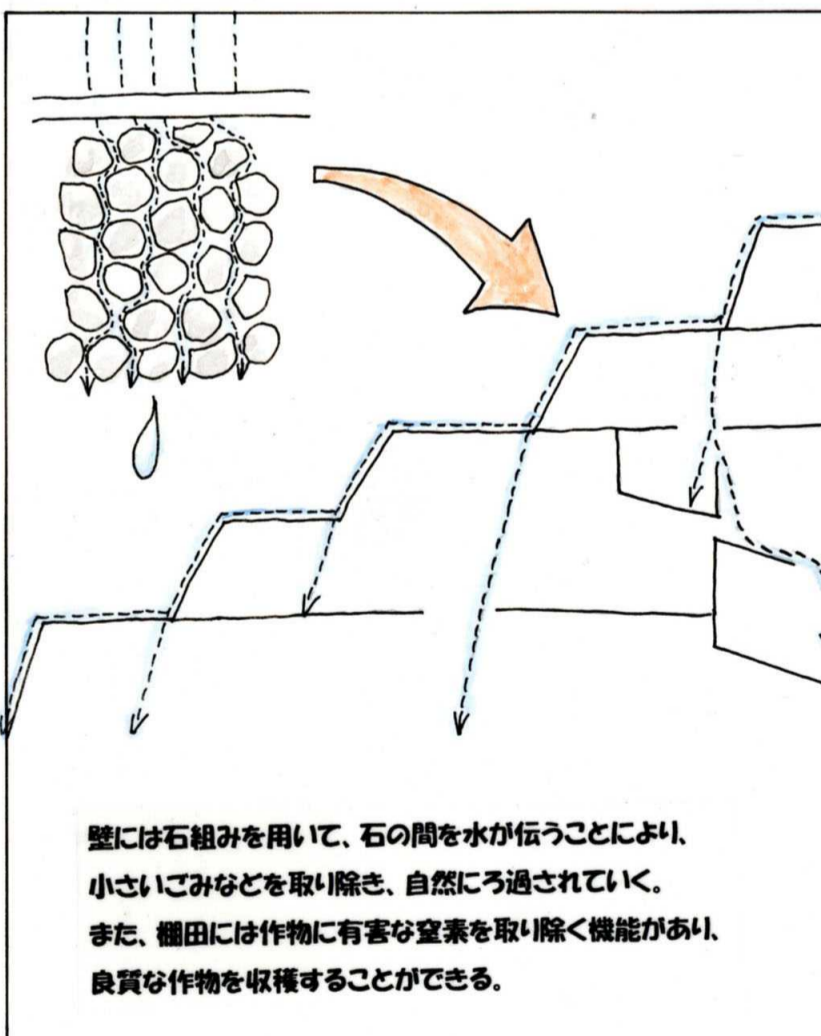
## 時間ダイアグラム



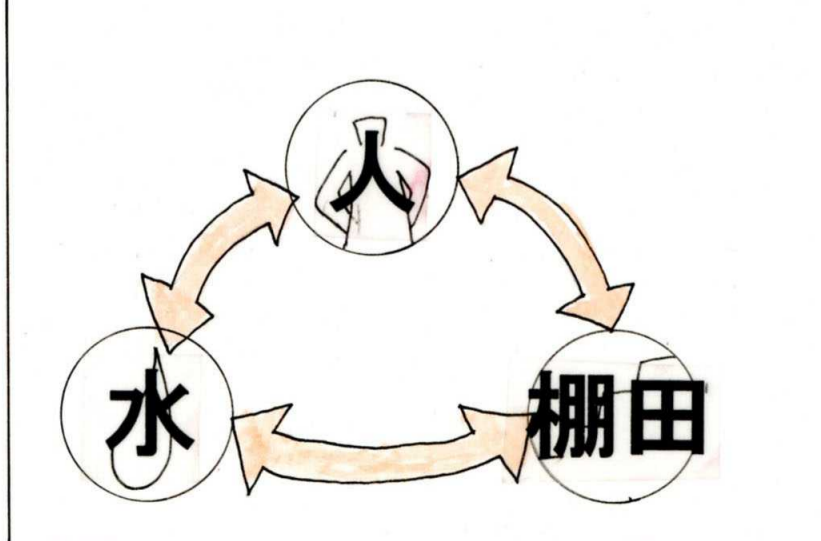
## 四季ダイアグラム



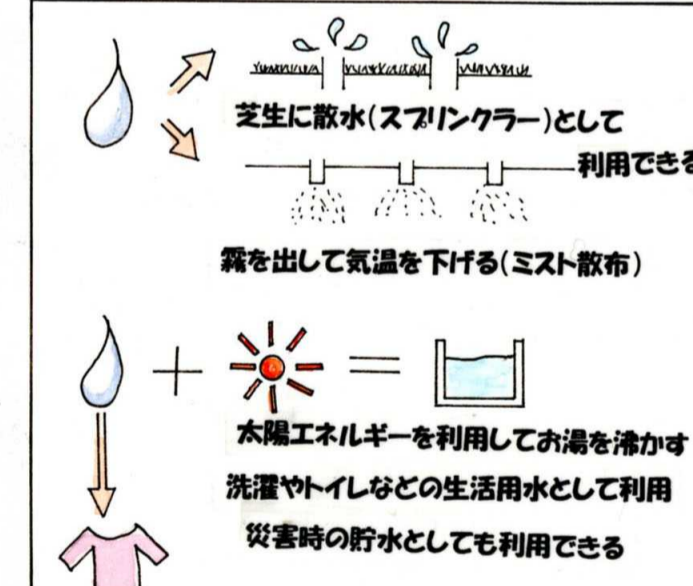
## ろ過システム



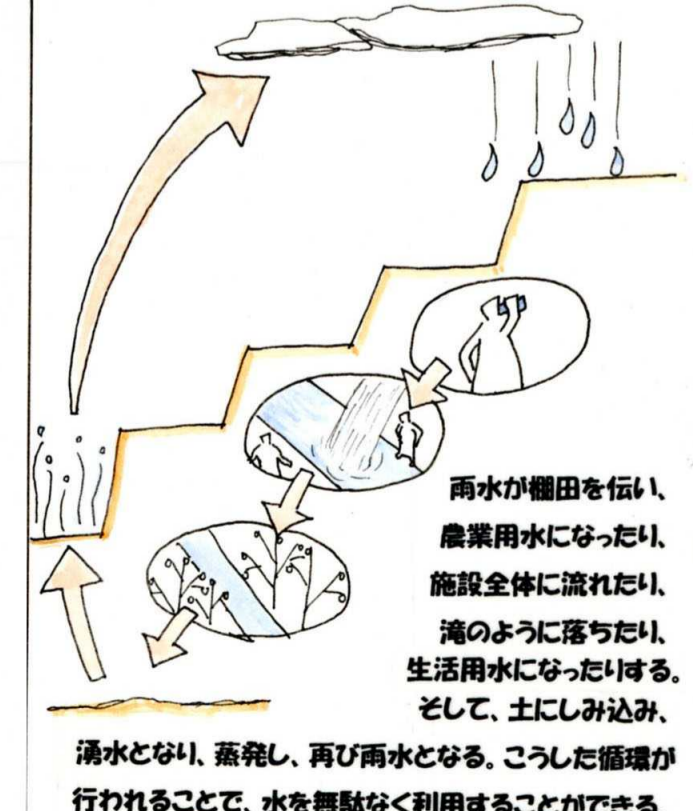
## 繋がる輪



## 雨水の利用



## 水の循環



## エコな材料から豊かな暮らしへ

